



# 只見線復旧復興基金寄付金募集 趣意書

～「只見線」の復旧復興のために～

J R只見線は、福島県会津若松市と新潟県魚沼市を結ぶ約 135 kmの路線で、地元の人々の貴重な生活の足であり、また、景勝地を走る鉄道として旅行者にも大変人気があります。

さらに、沿線地域は、豪雪のためしばしば道路交通が遮断されることから、緊急時のアクセス手段として、防災上もなくてはならない路線になっています。

しかし、「平成 23 年 7 月新潟・福島豪雨」で、只見川に架かる 4 つの橋梁が深刻な被害を受けたことに加え、原子力発電所事故に伴う風評により沿線の観光産業は大きな打撃を受け、2 年半以上が経過した現在でも、会津川口駅―只見駅間 27.6 kmは復旧の見通しが立っていません。

只見線沿線には 10 基の発電用ダムがあり、電力供給地として、戦後の復興と高度経済成長を支えてきた地域であり、そして今でも首都圏に電気を送り続けています。東日本大震災を契機として、原子力発電所の立地地域としての福島が存在については、全国に報道されたところですが、その一方、古くから水力発電により同様の役割を担ってきた当地域が、このような困難に直面していることは、あまり知られていません。

只見線の復旧には、約 85 億円と試算される費用と利用者数の問題があります。福島県及び関係市町村は、財政状況が厳しい中、只見線の復旧費用の一部を J R 東日本に対して支援することを決定しておりますが、今なお、J R 東日本から復旧の方針は示されておられません。

このような中、福島県及び関係市町村は、J R 東日本に対し復旧費用を支援するとともに、只見線の利活用促進に全力で取り組んでいくため、全国の皆様、只見線をこよなく愛する皆様、企業団体の皆様に広く、「只見線復旧復興基金寄附金」のお願いを行うことにしました。

昨今の厳しい経済状況の中、恐縮でございますが、何とぞ只見線と当地域の復旧復興の趣旨をご理解いただき、ご賛同を賜りますようお願い申し上げます。

また、大勢の方が只見線を利用して当地を訪れていただき、地域に元気と活力を与えていただきますよう、あわせてお願いいたします。

平成 26 年 2 月吉日

福島県知事 佐藤雄平